

中市堰

平成5年度に完成した中市堰は、小瀬川の河口から約3 kmに位置しています。旧中市堰は、大竹市内および和木町内一帯のかんがい用水の取水施設として設置された可動堰でしたが、老朽化によりゲートが動かなくなったことや堰敷高が高く洪水を安全に流せないため、改築を行い治水安全度の向上を図りました。また、堰は感潮区間にあることから、海水の遡上を防止する機能や取水位を確保する機能もっており、堰上流における工業用水や農業用水の安定的な取水を支えています。



中市堰諸元	
堰長	102.8m
ゲート型式	鋼製起伏ゲート
ゲート門数	29.1m × 3門

利水(水の利用)：河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

河川水の利用については、戦後の高度経済成長期の工場進出が行われた広島・山口両県の河口部コンビナート地帯に工業用水を供給しています。また、流域を越えて広島県西部や山口県南東部の周防大島まで広域的に工業用水・上水道用水が供給されています。今後も広域的かつ合理的な水利用を図るなど、関係機関と連携して必要な流量の確保に努めます。

基準地点防鹿における流水の正常な機能を維持するために必要な流量を概ね7 m³/sとし、流水の適正な管理、円滑な水利使用、河川環境の保全等を図ることとしています。



小瀬川の環境整備

小瀬川下流部では、堤防上を散歩等に利用する人が多く見られますが、車が行き交う狭い兼用道路で大変危険な状況でした。これを改善するため元町・和木箇所において親水性に配慮した河川管理用通路を整備しましたが、今後、大竹市本町箇所について同様に整備を進め、中市堰～大和橋～栄橋間を「小瀬川周遊回廊」として結ぶ計画を立てています。

中流部の狭い山間の住民にとって、小瀬川の広い寄州はひな流し等の地域活動や環境学習の場として貴重な空間です。木野水辺の楽校に続き、穂仁原水辺の楽校を整備しました。



和木環境護岸



穂仁原水辺の楽校

環境(自然への配慮)：河川環境の利用と保全

小瀬川と流域の人々との歴史的・文化的なつながりを踏まえ、人々にうるおいとやすらぎを感じさせる豊かな自然と緑が織りなす良好な河川景観、清らかな水の流れの保全を図るとともに、多様な動植物が息息・生育・繁殖する豊かな自然環境を次世代に引き継ぐよう努めます。



干潮時に出現する河口干潟



水辺の安全教室